

農学部

食料・資源経済学プログラム

取得できる学位 ★学士（農学）

■ プログラムの概要と人材育成のねらい

本プログラムは、農学と経済学、地域学、環境学などを網羅する複合領域のものであり、学生は農業・農村、食料・資源、地域・環境に関わる社会経済的な問題について国際的な視点から学習を深めることができる。本プログラムは、農林水産関係の官公庁・団体、農業、食品、流通などの業界で、国際的な視野を持った人材の育成を目指している。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 広い学問領域の一般的基礎知識を修得し、人間として品位ある人格を形成する。
- b) 食料生産を基盤とした経済活動である農業の基礎的知識を習得し、地球的規模から見た現在の農業について理解する。
- c) 栽培植物の起源や生育特性および基本的な栽培管理法を理解し、地域農業の成立条件と関連づけて説明することができる。
- d) 資源動物の分子から個体にいたる生理機能の特徴を理解し、生体での効率的な動物性タンパク質生産の仕組みについて説明できる。
- e) 食料、資源・環境に係る経済的な基礎知識を理解し、地域農業や国際的な視点から関連づけて説明することができる。
- f) 大学で農学を学ぶにあたって必要な基本的な能力を修得する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 食料の生産から流通・消費・リサイクルに至る社会経済システムを経済学的に分析することができる。
- b) 農業・農村の持続的発展のための経済政策について、評価・分析することができる。
- c) 農業資源の開発、農業経営管理について、現状分析と改善策の提言を行うことができる。
- d) 食料、地域、資源・環境に関する問題を国際的な視点から分析することができる。
- e) 食料・資源経済分野にかかわる知識、理論を総合的に理解し、当分野の課題・問題解決に向けての能力を身につけることができる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 英語を活用して会話や文章で日常的なコミュニケーションを図れる。
- b) 自分の考えを図表などを用いて効果的に示せると同時に、他者と論理的に議論できる。
- c) 目標の実現や課題解決に向けて、合理的かつ具体的方策を企画立案し遂行することができる。
- d) データベースを用いて情報を正確に収集できるとともに、得られた情報を正確に分析できる。
- e) 自分の考えを正確かつ論理的に文章で表現できる。
- f) 体系的に修得した知識を基盤として、多様な事象に対し論理的に思考することができる。
- g) 自分の考えを正確に他者に伝えることができるとともに、他者の考えを受容して、相互の考えを共有することができる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 社会に対して関心を持ち、新しい知識・技術を身につける意欲をもつことができる。
- b) 他者と協力・討論し、共通の課題解決に取り組むことができる。
- c) 課題の解決に向けて、自分自身で規範を設定し、それに従うことができる。
- d) 目標の実現や課題の解決に向けた行動を、粘り強く継続して行うことができる。
- e) 研究室活動を通じ、規則的なリズムで日常生活を過ごすことができ、社会の一員として貢献できる資質を養う。
- f) 地域社会と異文化に対して、深い認識と共感、敬意を持って接することができる。

■ プログラムの履修要件

生物学を中心とした自然科学に加え、人文・社会科学を含めた幅広い基礎学力を持ち、同時に明確な目的意識や専門分野に関する深い関心と勉学への意欲を持っていること。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

1年次には、主に学部共通科目、学科必修科目、教養教育科目等を通じて、教養、基礎学力の醸成を行う。2年次の前期には、学科共通の専門基礎科目を通じて、学科共通に必要な基礎知識を得るとともに、フィールド科学分野の体験学習を行い、食料の生産から流通・消費・リサイクルに至る社会システムの社会経済学的知識と分析能力を習得する。2年次後期には専門分野に関する基礎知識を得る。3年次には基礎から応用への展開を図り、実践的応用能力を養う。また4年次の卒業論文を通じて、総合的能力を養うとともに、プログラム全体を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等も養う。